

栃木県わがまち未来創造事業実績書(町総括表)
【単独事業】

市町名	野木町
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
1	老若男女が触れ合いながら集える親水公園づくり	総事業費	1,000,024					1,000,024
		うち市町支出額	1,000,000					1,000,000
		うち県交付金	500,000					500,000
2	新橋区高齢化対策検討と対策の実施事業	総事業費	940,013					940,013
		うち市町支出額	940,000					940,000
		うち県交付金	470,000					470,000
3	駅前商店街活性化事業	総事業費	1,036,834					1,036,834
		うち市町支出額	1,000,000					1,000,000
		うち県交付金	500,000					500,000
4	野木町春まつり	総事業費	1,894,208					1,894,208
		うち市町支出額	1,500,000					1,500,000
		うち県交付金	500,000					500,000
5	野木町ふれあい夏祭り	総事業費	615,025					615,025
		うち市町支出額	615,000					615,000
		うち県交付金	307,500					307,500
6	野木町駅伝大会	総事業費	990,000					990,000
		うち市町支出額	680,000					680,000
		うち県交付金	340,000					340,000
7		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
8		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
9		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
10		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
市町計		総事業費	6,476,104	0	0	0	0	6,476,104
		うち市町支出額	5,735,000	0	0	0	0	5,735,000
		うち県交付金	2,617,500	0	0	0	0	2,617,500

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市 町 名	野木町
事 業 名	老若男女が触れ合いながら集える親水公園づくり
事業主体の名称	水辺の楽校応援倶楽部
代表者の名称	長浜 利一
事業主体の所在	〒329-0114 栃木県下都賀郡野木町大字野木540-2
事業主体の概要	<p>・団体の目的: のぎ水辺の楽校周辺の自然保護と環境整備を推進する。 ・設立年月日: 平成24年4月14日 ・構成員等: 地域住民・のぎ学区分館役員・退職教員・地元選出議員・元地主</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>野木町は、ラムサール条約に登録された「渡良瀬遊水池」のほか思川が流れる水自然豊かな町である。そのため、国土交通省の「水辺の学校プロジェクト(※)」の対象となり、散策路等の整備が進められたが、平成21年度の事業仕分けで中断されてしまった。</p> <p>そこで、自分達の方で、きれいな水辺を活かした(ホタルが飛び交うくらい)老若男女が集える場所を作りたいと、地元の有志で「水辺の楽校応援倶楽部」を立ち上げ、水路や池の整備、ホタルの幼虫の放流等に取り組んだところ、最近では、ホタル観賞を目的に周辺住民が訪れるようになってきている。</p> <p>しかし、ホタルが自然発生する段階には至っておらず、水路や散策路も整備半ばであるなど、今後いかにしてホタルが自然発生する段階まで環境を整備し、町民をはじめ町外、県外からも人が集まる場にするかが課題となっている。</p>
事業目的	<p>・地域資源を活用し、ホタルが自然発生する環境を整備する。 ・町民に「自然が豊かで住みやすい街」として認識してもらおう。 ・町外、県外から観光客を呼び込む。</p>
事業概要	<p>【平成28年度】 整備半ばである水路等の整備やホタルが自生する環境づくりを継続したほか、周辺へのPRを強化した。 《環境整備》 ○ホタルの飛び交う環境づくり ・ゲンジボタルの幼虫や、カワニナ(ホタルのエサ)を放流した。 ・年5回専門家からホタル養殖技術現地指導を受けた。(専門家…30年以上にわたり水辺の動植物に関するフィールドワークを行う) ○水路の整備…開発半ばとなっている「のぎ水辺の楽校」に、湧き水を流す水路を作った。 ○散策路の整備…池及び周辺にある水生植物の成長を見守り、訪れた人々が四季に応じた植物を楽しめるよう散策路の整備を行った。 ○湿原の整備…水鳥や猛禽類を観察できるよう、湿原の環境整備を行った。 《町民へのPR》 ○近隣の小中学校との連携 ・野木小学校の5年制児童を対象に、環境問題に関する総合的な学習会を行った。 開催日: 平成28年5月10日(火)、6月24日(金) ・町内の小中学校5校の児童・生徒に飼育してもらったホタルの幼虫の放流会 開催日: 平成29年3月12日(日)(予定) 《人を呼び込む》 ○ホタル祭りの開催(平成28年6月11日(土)) ホタルの観察会、各種飲食屋台の出店などを行った。 ○PR活動 ホタル祭りのチラシを3,000枚、ポスターを1,000枚作成し、町内各所及び古河市内、JR野木駅、JR古河駅に配布したほか、野木町HPIにおいてもPRを行った。</p> <p>【平成29年度】 概ね前年度と同様</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【数値目標】野木町を暮らしやすいと感じている町民の割合 現状値: 59.0%(H27調査) → 目標値: 70.0%(H31調査) 【KPI】観光入込客数 現状値: 116,491人(平成26年度) → 目標値: 186,491人(平成31年度)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度		支援期間の 事業費計	
事業内容	①水路の整備 ②ホタルの幼虫放流 ③散策路の整備 ④湿原の環境整備 ⑤小、中学生の自然観察などの学習環境の整備 ⑥ホタル祭りの開催			
事業費	1,000,024		1,000,024	
市町支出金 (ソフト事業分)	1,000,000		1,000,000	
うち県交付金	500,000		500,000	
市町支出金 (ハード事業分)			0	
うち県交付金			0	
その他自主財源等	24	0	0	24

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部生活環境課人権・協働推進係
担当者名	南雲 克浩
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	nagumo@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	新橋区高齢化対策検討と対策の実施事業
事業主体の名称	新橋区高齢化対策検討会
代表者の名称	檜山 金哉
事業主体の所在	〒329-0101 野木町友沼5313-9
事業主体の概要	団体の目的: 高齢化社会に如何に対応していくか、公助を含め自助、共助による明るい地域社会の構築を目指す。 ・設立年月日: 平成24年10月20日 ・構成員等: 新橋区役員、区内自治会長、区内民生委員、老人クラブ、一般区民、野木町健康福祉課、政策課、社会福祉協議会
当該事業に係る地域の現状と課題	野木町の一つの区である新橋区は、人口4,300人弱の主に田舎の世代が暮らす住宅地で、町内でも高齢化が進んだ地区である。さらに、5年後には高齢化率が37.8%、10年後には同51.8%と県内でも他に類を見ない高齢者の多い地域となることが予想され、独居世帯や高齢者夫婦世帯の増加、自治会等の地域活動の停滞といった問題が懸念されたことから、平成24年から宇都宮大学隣内教授、佐野市のNPO法人「風の詩」副理事長永島先生の指導のもとアクションプランを作成し、そのプランに従って地域づくりを実施してきた。 しかし、高齢化対策には高齢者を支える人が必要であることや、近年、これまでの問題に加え、認知症発症者の増加が懸念されていることから、今後いかにして高齢者を支える若い世代を地域に呼び込むか、認知症を発症しても地域で暮らしていける社会をつくるかが課題となっている。
事業目的	・高齢者が、住み慣れた地域で、生きがいを持ち、安全かつ安心して暮らせる明るい地域を構築する。 ・認知症の発症を予防し、また、仮に認知症を発症した場合でも自助、共助、公助により安心して暮らせる地域社会の構築を目指す。 ・将来的には、「高齢者になって安心して暮らせる地区」「高齢者は多いが皆元気で、地域の人たちが(外で遊ぶ)子どもの面影を見られる地区」として若い世代に選ばれる地区にする。
事業概要	【平成28年度】 《高齢者が安心して暮らせる明るい地域の構築》 ○事業検討会 開催日: 第1回 平成28年5月29日(日) 第2回 平成28年11月26日(土) 内 容: アクションプランの取組に関し、年2回検討会を開き、取組状況の説明とともに宇都宮大学の隣内教授からアドバイスを受けた。 参加者: 新橋区役員、社会福祉協議会、町健康福祉課職員、町政策課職員 参加人数: 50人 ○高齢者見守りシステムの構築(随時) 検討会メンバーが独居高齢者の見守り活動、交通量の多い交差点での注意喚起、地区の見回りを行ったほか、高齢化対策の先進地視察や、老人介護の研修等に参加した。 ○高齢者生活支援事業の周知と促進(随時) 検討会メンバーが自力での生活が困難な高齢者に対する生活支援、本事業の周知を随時行った。 ○新橋区の見直し 開催日: 平成28年8月27日(土) 内 容: 高齢化で担い手不足に悩む地域行事を、高齢者世代と小・中学生など若年世代の双方が関わっていけるものとなるようお祭りの構成や内容を見直した。 ○地域防災活動の推進 地区住民に対して「避難所マップ」を配布したほか、高齢者世帯の災害時のサポート体制を構築している。 ○佐野市まちなかサロン「釜風カフェ」視察・研修 開催日: 平成28年11月18日(金) 内 容: 高齢化対策について先駆的な取組みを実施している佐野市の当該施設を訪問し、視察・研修を実施した。 参加者: 高齢化対策検討会企画部員、ふれあいサロンサポーター、包括支援センター職員、町健康福祉課職員 【認知症対策】 認知症は、家に引きこもりがちで他人と関わる機会が少ない人ほど発症しやすいと言われることから、地域の人と触れ合う場(機会)を設けた。 ○ボランティア活動等への参加促進(随時) 街なか美化活動などのボランティア活動や、ゲートボールなどのクラブ活動に積極的に参加することにより、他人と触れ合うことのできる場(機会)を作りを行った。 ○認知症に対する理解促進講座 開催日: 第1回 平成28年6月18日(土) 第2回 平成28年12月11日(日) 内 容: 軽度認知症の方及び認知症の方を介護する家族を対象に、認知症の症状を遅らせるために効果的な方法や、家族が認知症になった場合にどう対処すればよいか等についての講座を開催し、認知症に対して正しく理解してもらうことにより、認知症の方やその家族が住みやすい地域づくりにつながる環境づくりに務めた。 参加者: 第1回 新橋区役員、町社会福祉協議会、町健康福祉課職員、町政策課職員 第2回 新橋区民 参加人数: 第1回 40人 第2回 50人 《若い世代を地域に呼び込む》 また地区住民にも周知がされていないため、今年度は地区住民に対する周知を行った。 ○高齢化対策検討会の活動内容の広報活動 広報誌を年2回(7月、11月)発行し、全地区に配布するほか、町のHPに掲載し、高齢者になっても安心して暮らせる地域をPRした。 ○高齢者交通安全講習会 開催日: 平成28年11月7日(月) 内 容: 高齢者の交通事故被害を防ぐため、自転車交通安全講習会を実施した。 【平成29年度】 上記の取組を継続するほか、認知症に対する理解促進講座については、開催時期や回数について区民へのアンケートを実施し、開催方法を検討していく。 また、活動内容の広報について、自前のHPやSNSの作成を検討し、広く町外(県外)への周知に努める。
	【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【数値目標】流入(移住・交流)人口 117,495人(平成26年度) → 187,495人(平成31年度) 【基本目標4】時代にあった地域づくり 【KPI】まちづくり(協働のまち)の満足度 現状値: 0.11点(平成26年調査) → 目標値: 0.30点以上(平成31年調査)

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

事業内容	28年度		29年度		30年度		31年度	
	事業費	収入	事業費	収入	事業費	収入	事業費	収入
事業内容								
事業費	940,013				940,013			
市町支出金 (ソフト事業分)	940,000				940,000			
うち県交付金	470,000				470,000			
市町支出金 (ハード事業分)								
うち県交付金								
その他自主財源等	13	0	0	0	13	0	0	0

担当課(グループ・係)名	町民生生活部生活環境課人権・協働推進係
担当者名	南屋 克浩
連絡先	電話 0280-57-4132
	FAX 0280-57-3945
	E-mail nagumo@town.nogij.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市 町 名	野木町
事 業 名	駅前商店街活性化事業
事業主体の名称	のぎまちづくりネットワーク
代表者の名称	浜田 敏路
事業主体の所在	〒329-0101 栃木県下都賀郡野木町友沼4640-39
事業主体の概要	<p>・団体の目的:野木町駅前周辺の活性化を図る。 ・設立年月日:平成21年4月28日 ・構成員等:野木町在住のまちづくりに興味があり、趣旨に賛同した方 15名</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>地方を中心に少子高齢化・人口減少が進行する中、野木町でも、かつて賑わいを見せていた野木町前の商店街が閑散としており、「野木駅前周辺の商店街を元気にしてほしい」との声が上がっていた。そこで、平成21年「のぎまちづくりネットワーク」を立ち上げ、商店街への人の流れをつくるべく、年2回「のぎの楽市『えんにち』」を開催したところ、1000人を超える来場があった。以降、毎年内容を変え開催しており、昨年度開催した「ビールまつり」では2000人を超える入出があるなど、回を追うごとに来場者数が増えてきている。 しかし、来場者が増えたと言っても、まだイベント時に町内で盛り上がりがあるのみであるため、いかにしてイベント以外でも人が行き交う状態をつくり、外からも人を呼び込むかが課題となっている。</p>
事業目的	<p>・駅前通り商店街に町内外から人を呼び込む。(1年に複数回、さらに毎年野木町を訪れてもらう。) ・イベントに地域資源を活用し、若い世代の郷土愛を醸成する。 ・町内外に向けて「きらりと光る」元気なまちをアピールし、移住を促す。</p>
事業概要	<p>【平成28年度】 町内外から人を呼び込むイベントであるのぎの楽市「えんにち」を開催したほか、様々な事業を実施した。 ○のぎの楽市「えんにち」 [1回目]平成28年9月3日(土):えんにちのビールまつりとして開催。㈱アサヒビールの協力による生ビールの販売、各種屋台による飲食物販売、町内外の有志団体によるパフォーマンス等を披露した。【集客人数:2,000人】 [2回目]平成29年3月12日(日)開催予定:仮装ウォーキングや子ども広場を開催したほか、各種屋台による飲食物販売、町内外の有志団体によるパフォーマンス等を披露した。【集客人数:1,000名】 ○「えんにち」開催準備、内容検討 ※来場者を増やす工夫、リピーターを飽きさせない工夫 全国各地のイベントに出張し、「えんにち」に取り入れられそうなステージ演出等を視察した。(宇都宮市の宮まつり、鹿沼市の市民活動広場、東京都品川区のをイベントなど) ○幼児甲冑行列:平成29年3月12日(日) ※「えんにち」の2回目において仮装ウォーキングと同時開催 町内の保育所に協力を仰ぎ、吾妻鏡に登場した故事である「野木宮合戦」をイメージした折り紙甲冑行列を再現した。 ○集客(広告・宣伝) よみうりタイムス、下野新聞に広告を掲載したほか、渡良瀬遊水地周辺の地域情報紙「ワッセ」(2月号・3月号)及び小山市周辺の地域情報誌「シャローム」(3月号)の広告欄にて「えんにち」のPRを行った。 チラシを6,000枚、ポスターを100枚作成し、小山市の「まちの駅思季彩館」や商工会議所、各公民館、古河市の各公民館に設置した。 また、小山市の観光協会に打診し、「えんにち」のチラシの配布を依頼した。 ○「えんにち」来場者へのPR 町外からの来場者に対し、野木町の魅力をPRするため、ふるぶ野木版や町の紹介パンフレットなどの配布を行った。 ○商店マップの見直し 全体的に見づらい上に内容も乏しかったため、見直しを行い内容をリニューアルして町ボランティア支援センターなどに設置した。 ○駅前臨時案内所の開設 ひまわりフェスティバル開催時、電車で来町した方に対するおもてなしと町の魅力PRのため、野木駅西口に観光案内所を臨時開設して案内を行った。</p> <p>【平成29年度】 ・平成28年度までの内容を踏まえ、さらなる来場者数の増加が見込めると思われる内容で開催する。 ・「えんにち」のさらなる周知を図るため、HPやFacebookの開設を検討 ・駅前」に散在する空き店舗について、手始めとしてひまわりフェスの際に臨時で開設している駅前観光案内所の常設化を検討。将来的には、若者の起業支援や店舗運営体験(例えばカフェや雑貨屋、その他飲食店等)ができるような仕組みをつくる予定。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【KPI】転入者数 (H26)社会増減数8人の転入超過 → (H27~H31の5年間で)社会増減数180人の転入超過</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

事業内容	28年度		支援期間の事業費計	
	金額	割合	金額	割合
①楽市の開催(年2回) ②保育園児による折り紙甲冑行列の実施 ③商店マップの見直し ④駅前案内所臨時開設(ひまわりフェスティバル他)				
事業費	1,036,834		1,036,834	
市町支出金(ソフト事業分)	1,000,000		1,000,000	
うち県交付金	500,000		500,000	
市町支出金(ハード事業分)			0	
うち県交付金			0	
その他自主財源等	36,834	0	36,834	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部生活環境課人権・協働推進係
担当者名	南雲 克浩
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	nagumo@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市 町 名	野木町
事 業 名	野木町春まつり
事業主体の名称	野木町春まつり実行委員会
代表者の名称	委員長 真瀬 宏子
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町役場産業課商工観光係内」
事業主体の概要	団体の目的:桜が開花する時期に祭りを開催することにより、町民相互の交流とコミュニティの活性化を図る。 また、桜を中心とした町内の各種まつりをPRすることにより、地域の活性化に寄与することを目的とする。 設立年月日:平成27年1月21日 構成員等:町観光協会、町工場協会、商工会、地元区長、野木神社宮司等 計19名
当該事業に係る地域の現状と課題	栃木県内のほとんどの市町で人口減少傾向が続く中、野木町も年々人口が減少している状況にある。これまで、人を呼び込むためのイベントとして、「夏のひまわりフェスティバル」「秋の産業祭」「冬の駅前のイルミネーション」と季節に応じた開催してきたが、春のみ目立ったイベントがなかったことから、春の同時期に行われていた伝統行事と町内に点在する桜の名所の観光を促進するイベントとして「第2回野木町春まつり」を開催した。 春まつりの開催前はこの時期に大きな交流人口の増加はなかったが、平成28年度は、町内外から5,000人が訪れるなど、好評を博した。 しかし、また開催2年目で知名度が高くないことから、今後いかにして「外から人を呼び込むか」「来場者に野木町の魅力を知ってもらい、年間を通して訪問してもらおうか」「ゆくゆくは移住定住につながるか」が課題となっている。
事業目的	・町外(県外)から野木町に訪れてもらうきっかけをつくる。 ・年間を通して野木町を訪れてもらうきっかけをつくる。 ・将来的に野木町に移住定住してもらうきっかけとなるよう、来場者に町の魅力を知ってもらう。
事業概要	【平成28年度】 《野木町を訪れるきっかけ》 ○第2回野木町春まつりの開催 ・さくら祭り 開催日:平成28年4月2日(土) 開催場所:野木町総合運動公園 内 容:町内外の各種団体によるステージイベントやふれあい模擬店、打上花火 ・バルーングローの実施 開催日:平成28年4月2日(土) 開催場所:野木町総合運動公園 内 容:町のマスコットキャラクターである「のぎのん」が描かれた熱気球を夜間に膨らませ、暗闇の中で熱気球が提灯のようにはるく浮かび上がる幻想的な空間を演出し、来場者を魅了した。 ・よしずり体験会 開催日:平成28年4月2日(土) 開催場所:野木町総合運動公園 内 容:野木町を代表する特産品であり、「のぎブランド」の1つでもあるよしずり体験会を開催した。 ・ささら獅子舞 開催日:平成28年4月9日(土)・10日(日) 開催場所:野木町大字野渡 熊野神社 内 容:野渡地区の住民による伝統的な獅子舞の演舞披露や、山車巡りを実施した。 ・春神楽 開催日:平成28年4月10日(日) 開催場所:野木神社 内 容:古くから伝わる太々神楽を奉納し、近隣住民が町の歴史と伝統に思いを馳せる機会を提供した。 ○集客 まつりの開催について広報紙や町HPへ掲載したほか、チラシの配布(全11,000枚)や新聞折込(9,500枚)、ポスター(全150枚)を町内外の事業所やスーパー等に掲示した。 ○次回春まつり準備 平成29年度の野木町さくらまつり(春まつりから改称)の実施に関する備品等の購入及びポスター作成(前年度と同数) 《野木町の魅力を知ってもらう》 来場者に対するPRとして、観光情報誌「るるぶ野木版」のほか、町の紹介パンフレットや冊子を配布し、野木町の魅力をアピールした。 【平成29年度】 前年度と同様の取り組みに加え、以下の事業を実施する。 ○来場者アンケートの実施 改善点、来場理由(〇〇を見て)等を記載してもらい、次年度以降の内容検討につなげる ○集客方法の見直し 町外(県外)からの集客を強化するため、Yahooやるぶの祭り特集HPへの掲載を試みるほか、チラシ及びポスターを設置する範囲を広げる。(JR宇都宮沿線の栗橋駅や久喜駅等) ○熱気球体験会の実施 町のマスコットキャラクターである「のぎのん」が描かれた熱気球に乗り込むことができる体験会を実施する
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【KPI】観光入込客数 現状値:116,491人(平成26年度) → 目標値:186,491人(平成31年度) 【基本目標4】時代にあった地域づくり 【数値目標】野木町に住み続けたい、住み続けると思う人の割合 現状値:80.7%(平成26年調査) → 目標値:90.0%(平成31年調査)

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

事業内容	28年度		支援期間の事業費計	
	金額	割合	金額	割合
①春まつり ②バルーングロー ③よしずり体験会 ④ささら獅子舞 ⑤春神楽 ⑥次回春まつり準備 ⑦町の魅力PR				
事業費	1,894,208		1,894,208	
市町支出金(ソフト事業分)	1,500,000		1,500,000	
うち県交付金	500,000		500,000	
市町支出金(ハード事業分)			0	
うち県交付金			0	
その他自主財源等	394,208	0	394,208	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部生活環境課人権・協働推進係
担当者名	南雲 克浩
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	nagumo@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市 町 名	野木町
事 業 名	野木町ふれあい夏祭り
事業主体の名称	野木町ふれあい夏祭り実行委員会
代表者の名称	実行委員長 古澤 清一郎
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町教育委員会事務局生涯学習課内」
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:郷土芸能の保存及び町民同士の親睦を深める。 ・設立年月日:平成22年7月16日 ・構成員等:野木町おはやし保存会連絡会、野木町子ども会連合会、野木町女性団体連絡協議会、野木町レククル、野木町文化協会民謡舞踊部、野木町民の歌保存会、野木町生涯学習ボランティア連絡会、よさこい野木ひまわり、市川善英由会、野木中学校吹奏楽部、野木町スポーツ推進委員会、野木町ボランティア支援センター「きりり館」利用者協議会ほか団体多数
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>野木町では、かつて町内の各地区に「おはよしの会」があり、地域行事等でおはよしを披露することが盛んに行われていたが、平成以降、会員の高齢化に伴い、活動が縮小もしくは停止している状況となってしまっていた。また、野木町民の歌として「野木町音頭」があるが、町民への認知度は高いとは言えない状況にあった。</p> <p>そこで、平成10年、伝統文化の継承を目的として「おはよしの教室」を始め、さらに、平成22年からはおはよしや野木町音頭を再評価し定着させようという動きから、野木町ふれあい夏祭りを開催してきた。当初は、おはよし教室に参加した子どもたちの発表や、大人と子どもが日光和楽踊り、野木町音頭と一緒に踊るなどしていたが、現在では参加団体も増え、よさこい、フラダンス、三味線、中学生の吹奏楽や模擬店数など、第1回の倍以上の出店になった。</p> <p>しかし、少子高齢化という根本的な問題が解決していないことから、今後いかにして外から人を呼び込み伝統行事を継続していくかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・町の伝統文化・芸能を若い世代に継承していく。 ・野木町を訪れるきっかけをつくる。 ・将来的に野木町に移住定住してもらうきっかけとなるよう、来場者に町の魅力を知ってもらう。 ・子どもから大人(高齢者)までボランティアが盛んな町、さらには「生涯活躍のまち」として町外にアピールする。
事業概要	<p>【平成28年度】 《野木町を訪れるきっかけ》 ○ふれあい夏祭りの開催(平成28年8月27日(土)) ※来場者約2500人 <ul style="list-style-type: none"> ・太鼓(おはよし)教室受講生の発表・・・町内の中学生が練習の成果を披露した。 ・おはよしの模範演奏・・・上記の中学生の発表後、おはよし保存会員による模範演奏を行った。 ・野木町音頭、日光和楽踊り・・・町民の歌である野木町音頭に合わせた踊りや日光和楽踊りを披露した。 ・子ども広場(レクゲーム、遊びのコーナー)・・・来場した子どもに楽しんでもらうため、スタンラリーや各種ミニゲームを実施した。 ・イブニングコンサート・・・野木中学校吹奏楽部の学生によるコンサートを実施した。 ・食のコーナー・・・野木ブランド品の販売や各種模擬店の出店を行い、町のPRを図った。 ・体験コーナー・・・よさこいやうちわ作りの体験ができるコーナーを設置した。 ・うちわ配布・・・来場者に夏祭り記念うちわをプレゼントした。 ○おはよし教室の開催 野木町おはよし保存会の方を講師として呼び、中学生を対象におはよし教室を開催した。 開催日:7月27日、8月3日、10日、24日(いずれも水曜日) ○集客 広報紙や町HPのほか、野木町観光協会HPで周知を図った。 また、チラシ(2,000枚)ポスター(200枚)を町内各所のほか、古河市役所、結城市役所に設置した。 《野木町の魅力を知ってもらう》 ○町の魅力を掲載された各種パンフレット(るぶ野木版など)を会場出入口等人目につく場所に設置した。</p> <p>【平成29年度】 前年度と同様の取り組みに加え、以下の事業を実施する。 ○来場者アンケートの実施 改善点、来場理由(○を見て)等を記載してもらい、次年度以降の内容検討につなげる。 ○町ボランティア支援センターとの共同実施 本事業は、町ボランティア支援センター「きりり館」との共催でもあるため、中学生から大人(高齢者)までボランティア有志による運営を行う。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【KPI】 観光入込客数 現状値:116,491人(平成26年調査) → 目標値:現状より70,000人の増加(平成31年度)</p> <p>【基本目標4】時代にあった地域づくり 【数値目標】 野木町に住み続けたい、住み続けると思う人の割合 現状値:80.7%(平成26年調査) → 目標値:90.0%(平成31年調査)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

事業内容	28年度		支援期間中の事業費計	
	事業費	うち県交付金	事業費	うち県交付金
①太鼓(おはよし)教室受講生の発表 ②おはよしの模範演奏 ③野木町音頭、日光和楽踊り ④子ども広場(レクゲーム、遊びのコーナー) ⑤イブニングコンサート ⑥食のコーナー(模擬店等) ⑦体験コーナー(よさこい体験、うちわ作り等) ⑧うちわ配布	615,025		615,025	
市町支出金(ソフト事業分)	615,000		615,000	
うち県交付金	307,500		307,500	
市町支出金(ハード事業分)			0	
うち県交付金			0	
その他自主財源等	25	0	25	0

市町担当情報	町民生活部生活環境課人権・協働推進係
担当課(グループ・係)名	南雲 克浩
担当者名	0280-57-4132
電話	0280-57-3945
FAX	nagumo@town.nogi.lg.jp
E-mail	

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	野木町駅伝大会
事業主体の名称	野木町駅伝大会実行委員会
代表者の名称	委員長 真瀬 宏子
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町教育委員会事務局生涯学習課内」
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:生涯スポーツの普及と振興を図る ・設立年月日:平成28年7月中(予定) ・構成員等:野木町体育協会23加盟団体、スポーツ関係団体、町職員
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>野木町は、「1人1スポーツ」というスローガンのもと、町体育協会加盟の23団体、元気の出るスポーツクラブのぎ、町体育施設、学校体育施設の定期利用団体等を中心に、年間延べ241,000人が何らかのスポーツ活動をしているなど、スポーツが盛んな町である。さらなるスポーツ振興のため、町では昭和46年から、子どもから大人までがタスキをつなぐ駅伝大会を開催し、日頃の練習の成果を発揮する場を設けてきた。</p> <p>しかし、野木町でも少子高齢化・人口減少が進み、子どもの部を中心に参加者の減少が懸念されているほか、近年では、ランニング=つらい=やらない子どもが増え、子どもの体力低下も懸念されている上、スポーツが盛んな町とはいえ、中高年も加齢とともに日常的な運動から離れつつある。そのため、いかにして参加者の減少を食い止めるとともに、子どもから大人まで生涯スポーツの普及を図っていくかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツの1つとしてランニングを推進する。 ・子どもから大人まで、日常的にランニングを行う町にする。 ・ランニングの指導体制をつくる。 ・子どもの教育にいい町、子どもから大人まで健康で生き生きしている町として、移住定住先選ばれる町になる。
事業概要	<p>【平成28年度】 駅伝大会を開催したほか、もっともシンプルな運動の1つであるランニングを通して子どもから大人まで生涯スポーツを普及するため、ランニング教室の実施や、ランニングを指導できる人材の育成を図った。 《生涯スポーツの推進》 ○野木町駅伝大会 開催日:平成29年1月22日(日) 内容:小学生から大人までが町内東側を一周するコース 中学生男子・一般男子・壮年男子の部 16.1Km(7区間) 小学生男女・中学生女子・一般女子の部 10.9Km(5区間) ○小学生マラソン教室の開催 開催日:平成28年9月27日(火)、10月22日(土)、11月12日(土)、12月10日(土)、24日(土)、平成29年1月14日(土) 内容:町出身のマラソンランナー(吉本興業所属)などにボランティアで講師を依頼し、走ることの楽しさを知ってもらうとともに、正しいランニングフォームの習得や基礎体力作りなどのメニューを実施した。 《指導体制をつくる》 上記マラソン教室開催のため、指導者の育成を図った。 ○講習会の開催 開催日:上記マラソン教室と同時間開催 内容:町出身のマラソンランナーの兄弟に講師を依頼して開催した。 対象:町体育協会陸上部員4名(男性2名、女性2名)、町民生委員1名(男性)</p> <p>【平成29年度】 マラソン教室について、町外を含めた幅広い対象へのアピールが不十分であったため、PR活動を充実させる。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【数値目標】野木町を暮らしやすいと感じている町民の割合 現状値:59.0%(H27) → 目標値:70.0%(H31) 流入(移住・交流)人口 117,495人(平成26年度) → 187,495人(平成31年度) 【KPI】まちづくり(教育のまち)の満足度 現状値:0.29点(H26) → 目標値:0.45点以上(H31)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	
事業内容	①野木町駅伝大会 ②小学生マラソン教室の開催 ④講習会等における指導者の育成				
事業費	990,000			990,000	
市町支出金 (ソフト事業分)	680,000			680,000	
うち県交付金	340,000			340,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	310,000	0	0	310,000	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部生活環境課人権・協働推進係
担当者名	南雲 克浩
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	nagumo@town.nogi.lg.jp